2014 JULY vol. 3
住み慣れた土地で 生き生きとした暮らし
リハ日和
DAI2 NARITA MEMORIAL HOSPITAL

院外発表の取り組みについて

理学療法士　袴田大介

当院では院外での研究発表活動にも積極的に取り組んでおります。昨年度は３つの研究大会・学術発表会、１つの公開講座へ合計８件の発表をすることができました。

今回はその中の１つ、理学療法士の袴田大介さんからの発表ならびに感想をご案内致します。

発表場所	日　時	内　容
第23回 回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会in名古屋	2014 ２月７・８日	当院における退院後訪問の 取り組みによる変化 理学療法士　袴田大介

院外での研究発表にあたり、当院での『退院後訪問』の取り組みについての効果を検証しました。『退院後訪問』とは、当院を退院された患者様のご自宅を約一ヶ月後に療法士が訪問し、入院中のリハビリテーションや住宅改修などの妥当性を確認する為に行っている当院での取り組みです。その事は今後入院されてくる患者様によりよいリハビリテーションとして反映されます。もちろん退院された患者様にご協力を得ながら行っております。

さて、では実際に『退院後訪問』の取り組みが、その後の入院患者様に反映されているのでしょうか？その事を検証する為に今回の研究発表となりました。研究データを集計し、統計処理をするといった作業は普段身体を動かしてリハビリテーションをしている私には想像以上に大変でした。ただ、今回の研究発表において『退院後訪問』の効果を客観的に検証することができ、大変有意義な経験となりました。

研究結果としては「生活期への移行に際し困難な点があった」患者様は前年度と比較して少なくなっていました。地道な取り組みですが、着実に成果が実を結んできていると感じています。しかし、まだ困難に感じている患者様もいらっしゃいますので今後もより良いリハビリテーションの提供の為に引き続き取り組んでいきたいと思います。

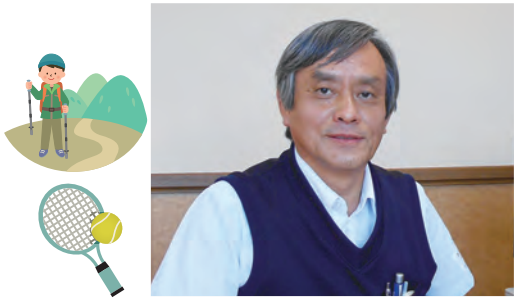
最後に、今回の発表に際しご協力頂いた患者様、ご家族様に深くお礼申し上げます。

回復期病棟１年目医師＆新入職者紹介

医師 甕　祐史先生

1960/02/14名古屋生まれのB型で趣味は自動車競技です。内科医としての専門は自己免疫疾患で、これまでの７年間は自動車部品会社の産業医でしたが、医者としての最後は患者さんとの触れ合いの中で迎えたいと考え、当院にお世話になることにしました。

患者様の希望はしっかり受け止め、それに現実を味付けするのが役目だと思っています。自分に残された時間を趣味と仕事のバランスをとりながらやりくりするのに腐心する毎日です。



医師 竹内宣久先生

趣味はテニスと山登り。週１回土曜日に市営コートでテニスをしています。休日には時々近隣の山に登っています。

さて、成田記念病院から当院へ変わって10か月が経ちました。入院してきた患者様が、能力を取り戻して元気になって退院する姿をみて、充実感を覚えるこの頃です。今後は積極的にリクリエーションの行事などに参加して、患者様のQOLが上がるように考えていきたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。

理学療法士 岩瀬　諭さん

勤務１年目ということで分からないことだらけではありますが、理学療法を始め、その他の業務などに対して失敗を恐れず前向きにチャレンジしていきたいと思います。

理学療法士 熊谷知恵さん

スタッフの一員として知識の向上に努めるとともに、恵撫の心を大切に業務に取り組みたいと思います。

まだ右も左もわからない未熟な私ですが、１日も早く先輩方に追いつけるよう一生懸命努力してまいります。

理学療法士 市川莉々子さん

４月に入職して、初めての環境・業務で慣れないことや戸惑うことが多くありますが、スタッフとしての自覚を持ち、周りの方々を見習いながら少しずつ成長していけるよう、自分なりに努力していきたいと思います。

言語聴覚士 深谷あゆみさん

今年は言語聴覚士１年目として先輩方にご迷惑をおかけすることが多くあると思いますが、笑顔を忘れず患者様と関わっていきたいと思います。そして１日も早く立派な医療スタッフとなれるよう努力していきます。

栄養士からのお知らせ

『食中毒』

夏になると増えてくるのがO-157などの細菌による食中毒です。学校など集団食中毒がよくニュースになりますが、家庭での食中毒も発生しています。症状が軽く風邪や寝冷えなどと思われがちですが、重症例も報告されています。家庭でできる予防３原則を守りましょう。「①つけない」食材や手はもちろん、肉や魚を扱ったまな板、包丁をこまめに洗いましょう。「②増やさない」調理後はなるべく早く食べ、保存する場合は冷ましてから冷蔵庫へ入れましょう。「③やっつける」肉は中心部まで十分加熱しましょう。

患者様からのメッセージ

退院した患者様から、お手紙を頂きましたので、この場を借りてご紹介したいと思います。

昨年８月から晩秋までの10週間をこの病院でお世話になった。入院生活は思いの外、気楽なものではなく、ままならぬ肢体をかかえて、昼間は次々と浮かんでくる心配事や苦痛に襲われ、長すぎる夜は不安感にさいなまれて、朝の光を待ちかねる。そんな時期に、毎日施される３コースのリハビリは、損傷した身体の回復のみならず、精神的活力の復帰のためにも極めて有効な措置と思われる。

ここでは『理学』、『作業』、『言語』の３部門に、60数名の療法士が、最新のリハビリ術を修得して配置され、熱心に施術を行っている。一世代も二世代も年齢差のある療法士と患者が、まるで昔からの親友同志みたいに談笑しながらリハビリ治療が進行する。

入院規則の厳格さに不満を呈する者、食事に文句をつける老人、やたらに我が儘を言って看護者をてこずらせる患者も、皆んなみんな、リハビリばかりは、決してイヤがる事なく、喜々として受ける。

療法士は、「私の技術でこの患者の損なった機能を修復してみせる」と云う意気込みさえ有ればリハビリはスムースに進行する。患者は、冗談や自慢話をしながら、機嫌よく転がされたり、這わさせたりして、機能回復にむかう。私もそのような過程を経て、自立した日常生活を、ほぼ獲得した。

入院中、同病同室の方々、看護・介護の諸師との“忘れ難い”貴重な出会いがあった。今は、懐かしく思い出す。入院中お世話下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

Ｋ・Ｅ様より頂きました。今後も患者様の力になれるよう日々努力していきたいと思います。ありがとうございました。
他にもご意見、ご要望などございましたら当院スタッフまで気軽にお申し出ください。

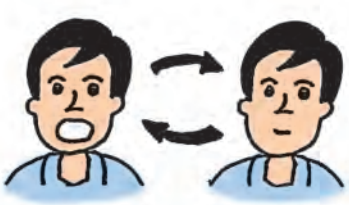
Let's リハビリ ～誤嚥を予防しよう!～

皆さん。食事をする時、むせることはありませんか？むせ自体は悪いことではないですが、加齢や病気により飲み込む力やむせる力が減ってしまい、食物が気管に入ってしまう事があります。それを『誤嚥』と言います。『誤嚥』は『誤嚥性肺炎』という恐ろしい病気を引き起こします。

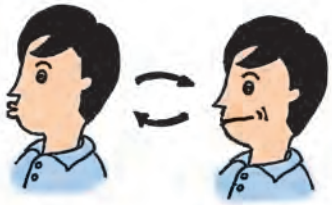
今回はその『誤嚥』を予防するため、当院でも夕食前に行っている嚥下体操をご紹介します。

ぜひご家庭でも食事前に実践して頂けたら幸いです。

口唇の体操



1 口を開けたり閉じる。



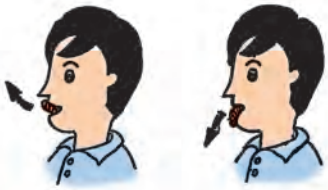
2 唇を突きだしたり横に引く。

3 頬を膨らませたりへこませる

舌の体操

1 舌を出したり引っ込ませる。

2 舌で左右の口角に触る。



3 舌で上下の唇を触る。

それぞれ交互に
各10～20回行いましょう♪

口だけ院長の呟き その3

『読書のすすめ・続き』

おりしも某紙で100年記念として漱石の「こころ」が再連載中ですが、抑々私の小説の読み始めは何を隠そう夏目漱石「猫」（「吾輩は猫である」）でした。吾輩（猫）がふと見ると、苦沙弥先生が机に向かって何をしているかと思えば鼻毛を抜いては一本一本毛根の部分を下にして机に立てている光景はその表現の妙によってさらに引き立ち、しみじみ印象に残り、俺も小説家になろうという気分にさせるに十分なものでした。それでその気になってやろうということになったのですが前述したように挫折して読むだけになってしまったのです。

現在は月刊の文芸雑誌４誌（新潮、群像、文学界、すばる）から毎月１冊ないし２冊を選んでトイレで、その他の時は、例えば電車に乗った時など単行本、主に翻訳の小説ですが、また文学者が書いた歴史ものなども読みます。翻訳もので登場人物が多いものですとその名前を把握するだけでも難儀をしますが、最近は塩野七生というイタリアだかに住んでいる女流作家が十字軍について書いた大作を興味深く読みました。その中に出てくるわからない人物名や地名やらを孫引きして調べていったりすると次第にヨーロッパの歴史、成り立ちが見えてきたりします。この孫引きから孫引きへと興味の連鎖が広がっていくというのが読書の主たる効用のひとつで、その意味で好奇心を失わず、脳の訓練になり、老化を予防できるかもしれません。

脳の訓練といえば、算数と語学が良いと聞いたことがありますが、外国語を勉強するのが良いと思いますし、私のように英語すら喋れないものにとっては英会話の訓練のつもりで、家族がいないときに大きな声を出してNew York Times' Best Sellersのひとつなぞ現地人の口調で朗読していますが果たして効果があるかどうか‥‥‥。少なくとも仕事に役立つとは思えません。

文学の次は芸術と相場が決まっていますが、私の場合は絵心は全くなく、人の顔ならへのへのもへじ、景色を描けば富士山と煙を吐く蒸気機関車ぐらいしかありませんが、音楽なら、勿論これも中途半端に終わっていますが、いささか自信が、というか一家言持っておりますが、これは次回のお楽しみとします。

院長　樋下田 稔昭

編集後記

今回で３回目の発行となります「リハ日和」ですが、私自身が編集に関わるのは初めてとなります。まだまだ不慣れで見苦しい部分もあるかと思いますが、最後の編集後記までお付き合いくださいましてありがとうございます。

さて、この４月に新しいスタッフを向かえました。病院の雰囲気も若返っております。若さ溢れるフレッシュなスタッフに負けないように、私自身もアンチエイジングで頑張りたいと思います。皆様も御身体にお気をつけて、アンチエイジングでまいりましょう。

理学療法士　渡辺泰洋

病院基本理念

「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、
住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。

社会医療法人 明陽会
第二成田記念病院
〒440-0855 豊橋市東小池町62-1　TEL.(0532)51-5666
http://www.meiyokai.or.jp/narita2/　FAX.(0532)55-0660